

『公』を取り戻す経営者になろう、経営をしよう！

経営には『経営理念』がなければなりません。我が社は、将来どこに向かうのか。我が社の、社会的使命は何か。我が社は、どんな商品を世の中に提供するのか。我が社の社員は、どんな仕事観をもつべきか等々を示す、謂わば、我が社の「指針」であり、我が社の「憲法」のようなものが経営理念です。

これあるが故に、社長は、正々堂々と社員に檄を飛ばし、発破をかけ、時に、厳しく叱ることもできるのです。

なぜなら、社長は、社員の生涯に亘る扶養義務を持つのですから、経営を健全に発展させ続けなければならないからです。

具体的には、毎年の「経営計画書」を社長自らが策定して、経営戦略・新商品開発・設備投資計画・人材教育等について経営幹部と定期的に検討をします。

各担当者は、毎月・毎週、進捗度を予定と比較検討し、未達を防ぎ、更に上方修正していくことに喜びを感じるほど、没頭してくれているはずです。

心ある経営者としては、これで十分かと言えば、何かが不足している、何か欠落している、経営に命を懸けるには何か十分でないものがあると感じるはずです。

それが『公』の欠落です。即ち、『常により良い日本をつくる努力を続けることが、私どもに課された義務であり、後に来る時代への責任である』（今上陛下のおことば）に示されている『公』が欠落しているからではないでしょうか？

画竜点睛を欠くとは、まさに、このことです。

我々は、日本人として、元来『公』を、大事にして来たのです。戦後のGHQの名の下に教えられた戦後民主主義という浅薄なもの、あるいは経済至上主義の限界を、そろそろ、心ある経営者は、乗り越えて参りましょう。否、失いかけていたものを取り戻しましょう。

大震災や、非常時に世界が驚嘆する日本人の冷静な対応、思いやり、いたわり、誠実さ、自己犠牲を厭わない凛とした態度の数々に、その片鱗がみえています。

そうです！『経営理念』の更に上には、『公』があるのです。

これで、すっきりします。心が安らぎます。心底納得します。

さあ、社長、早速、我社の『経営理念』の位置づけを、全社員に発表しましょう。ますます、経営に、日々の仕事に力が入ります。



今月のポイント

世界をリードするのは我々

日本の中小企業です！！